

ひるまだより

2006.11 vol.12



<今月の花*ノースポール>

医療法人
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

【ひるま矯正歯科】 立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376 URL:http://www.hiruma.or.jp/

オーラル・フィジシャン

オーラル (Oral) は口、フィジシャン (Physician) は内科医、オーラル・フィジシャン (口腔内科医) とはあまり聞かない名前ですが、山形県酒田市から常に先駆的な歯科医療を発信し続けている熊谷崇先生が提唱し、その育成に努めている新しい歯科医師の形です。熊谷崇先生やオーラル・フィジシャンについての詳細は「トピック」をお読みください。

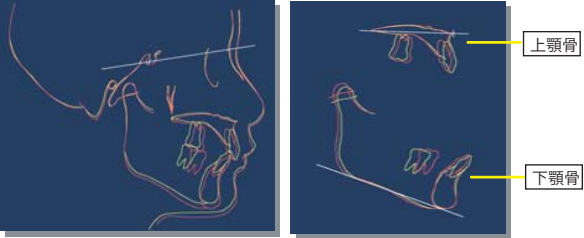
なお、当院の副院長 (書間康明) は、今夏この研修を修了しオーラル・フィジシャンに認定されました。

「トルクコントロール」後編

今回はトルクコントロールが分かりやすい上顎前突症例を提示しながら、アンテリアトリアクション (前歯の後退) を行う際に大切なトルクコントロールについて説明します。なお本症例では、叢生 (歯のデコボコ) があるため抜歯によりスペースを作り上顎の前歯をできるだけ後退させる治療方針です。

～頭部X線規格写真の外形線のトレース図を見てみよう～

写真黄色いラインは治療開始時、赤いラインは終了時の状態を示しています。左図で上下顎の前歯がほぼ平行に後退しているのがお分かりになるかと思いますが、右図は上顎骨、下顎骨それぞれの基底面を基準に治療開始時と終了時の顎骨と歯の位置関係の変化を示したものです。

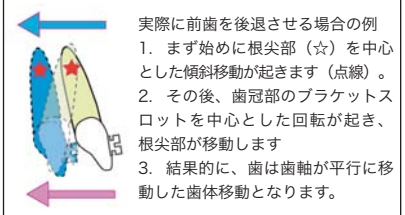


上顎骨：上顎前歯は治療前後で歯軸が平行に後退 (歯体移動) し、根尖部 (歯の根の先) も後退している事がわかります。
下顎骨：下顎前歯も同様に、歯軸が平行に移動 (歯体移動) しています。

～前歯の移動で大切な事～

前歯を後退させる量が多い症例では、前歯を歯体移動させる事によって過度に舌側傾斜させない事が重要です。それには歯体移動に充分時間をかけることが必要です。上顎前歯の後退を急ぎ過ぎた場合、前歯は過度に舌側に傾斜します。その場合、上下顎前歯の重なりが深くなり過ぎ不安定な咬合になるなど様々な問題が発生します。

では、歯体移動に時間がかかるのはなぜでしょうか？
歯冠部は歯槽骨から出ているため動きやすいものの、歯根部は歯槽骨の改造減少を待ちながらの移動となるため、移動を急いでも歯冠部の移動が先行し歯根部の移動が遅れるため傾斜移動になってしまいます。
また、厳密には前歯を後退させる場合、まず傾斜移動により歯冠部が先に移動します。その後ワイヤーのたわみにより根尖部も移動するのです。そこで、前歯の傾斜角度に注意を払いながら後退量やトルクを調整していかなくてはなりません。



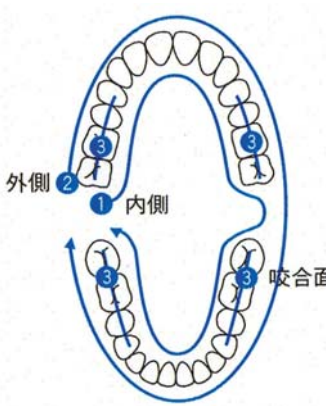
～トルクコントロールのまとめ～

トルクコントロールとは、レクトワイヤーに組み込むトルクの量と歯の移動にかかる時間のコントロールです。トルクコントロールを行い、歯体移動を行なうという事は「矯正治療の質を高める不可欠なコントロール」と言えるでしょう。

矯正豆知識

クール磨き

クール磨き (クール・ブラッシング) とは聞き慣れない磨き方ですが、当院ではこれからこの方法を指導していきますので覚えてください。この方法の最大の特長は、図のように口の中を一筆書きの要領で一週しながら、すべての歯を磨くことです。「一筆みがき」と覚えてもいいでしょう。



クールとは区切りの意味で、5分間一周を目安にクールとし、毛先 (歯ブラシ) を替えてもうクール計2クール磨くのが標準です。

▼12月27日 (水) は午前中のみ診療です。
▼年末年始のため12月28日 (木) ～1月4日 (木) 休診します。

「熊谷崇氏に聞く」掲載に先立って

※次号より掲載の熊谷崇先生の経歴と Oral Physician について、記事から引用して説明しておきます。

熊谷崇先生は、80年横浜市から山形県酒田市に診療所を移転。予防管理を重視した先進的な診療で大きな成果をあげてこられました。99年に「日本ヘルスケア歯科研究会」を設立し、歯科界の改革に向けたさまざまな提言を行いつつ、04年に成人用と小児用を合わせた計17台のチェアなど、最先端の設備をそろえた日吉歯科診療所を完成。さらに「Oral Physician (口腔内科医 育成セミナー)」で後進の育成も始めるなど、常に次世代

「記事から引用して説明しておきます。」
04年、歯科雑誌「歯界展望」が熊谷先生へのインタビュー記事を掲載、先生はそこで Oral Physician を「患者の生涯にわたって虫歯、歯周病という口腔二大疾患の発症と再発を防ぐため、さまざまなリスクを診査、診断し、処置方法を決定することができる内科医的な歯科医」と述べています。これからの歯科医のあり方などについて熱く語っているインタビューを次号から掲載します。ご期待下さい。

ヒルマトキオのホッとひと息

ヒヤリハット

昨年一年間に、全国約250の医療施設で一步間違えば医療事故になりかねないヒヤリハット事例は約18万件あったそうです。ハインリッヒの法則によると、重篤な事故1件の発生に至るまでには、軽い事故が29件、さらにその下にヒヤリハットしたことが300件あるといわれています。勘違い、思い違い、先入観などが人である限り間違いはありますが、重篤な事故に至らせないためには日頃のヒヤリハットを軽視しないことが大事です。

診療の補助業務でのヒヤリハットの事例では、看護師による薬の取り違えがもっとも多かったそうですが、可笑しなヒヤリハット話を見つけました。

おばあちゃんの話です。お医者さんで「お尻に入れなさい」と渡された座薬を、お汁に入れて飲んでしまいました。

では皆様、ご無事でよいお正月をお迎えください。